うな時期には、精神病院、精神科デイケア施設、社会復帰施設等を含む地域精神保健福祉活動の状況を、継続的にモニタリングすることは、大きな意義がある。

本研究は、厚生労働省精神保健福祉課が毎年行っている調査に研究面より関与し、精神保健福祉の活動状況を総合的に把握する研究の一環として実施された。この報告書では、精神病院に焦点を絞って、その活動の状況を明らかにすることを目的とする。

B．研究方法

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神保健福祉課では、毎年 6 月 30 日付で、精神保健福祉課長から都道府県・政令指定都市の精神保健福祉主管部（局）長に「精神保健福祉関係資料の作成について」という文章依頼を行い、全国の精神病院の状況についての資料を得ている。この情報収集は精神保健福祉課の業務の参考にすることを目的としており、全国の精神病院の協力によって継続され、我が国の精神保健福祉に関する貴重な資料となっている。本研究は平成 12 年 6 月 30 日付で行われた調査の中で精神病院に関係する部分を厚生科学研究として解析したものである。

C．研究結果

1．施設・病床・従業員数の状況

1）施設数・病床数について（表 1 から 3）

精神病院数は 1,667 病院、病床数は 348,966 床であった。前年度の結果と比較すると、それぞれ 4 病院と 191 床の増加であるが、年度毎の回収率が若干異なるため、この程度の違いは実質的にはほぼ変化なしといえるであろう。大学病院は 82（4.9%）病院で 4,497 床、国立病院は 49（2.9%）病院で 6,994 床、都道府県立病院は 79（7.3%）病院で 15,942 床、指定病院は 1,007（60.4%）病院で 252,213 床、非指定病院は 450（27.0%）病院で 69,370 床であった。指定病床数は、16,521 床であり、平成 11 年度の 15,278 床と比べてやや増加している。

全病院のうち単科精神病院は 1,079 病院で、精神病床 80%以上の一般病院は 199 病院、精神病床 80%未満の一般病院は 389 病院であった。精神病床 80%未満の一般病院は、大学病院、国立病院に特に多く、都道府県立病院に比較的多かった。

応急指定病院は 156（9.4%）病院、精神科救急医療システム整備事業等で精神科救急に参画している病院は 779（46.7%）病院であった。

精神科専門病床については、精神療養病床 62,635 床、老人性痴呆疾患病床 20,373 床、老人精神病床 14,732 床、急性期治療病床 6,541 床、アルコール専門病床 4,332 床、薬物専門病床 317 床、アルコール・薬物混合病床 878 床、児童思春期病床 711 床、合併症病床 2,013 床であった。薬物

専門病床、児童思春期病床、合併症病床は設置率が低く、国立病院においても設置が少ないといった状況は昨年度までと変わりがない。

閉鎖・開放別の病床数は、夜間外開放が 123,523 病床、個別開放が 76,840 病床、終日閉鎖が 148,603 病床であり、終日閉鎖が減少し個別開放が増加しているといった昨年度と同様の傾向が示された。電話設置病棟の比率は、夜間外開放、個別開放、および終日閉鎖いずれの病棟についてもほぼ 9 割であった。保護室数は 10,272 室であり、保護室利用者数は 7,161 人（表 5）であったことから、平成 12 年 6 月 30 日時点での保護室の利用率は 69.7%であった。100 床あたりの保護室と施錠できる個室の数はそれぞれ夜間外開放で 0.48 室と 1.5 室、個別開放で 2.6 室と 2.3 室、終日閉鎖で 5.2 室と 1.4 室であり、閉鎖処遇が多くなるほど保護室の割合が高くなっている。

2）従業員数について（表 4）

精神病院の従業者数について、病床 100 床あたりの常勤職員数は、全体では医師 2.7 人、正看護婦・士 14.7 人、准看護婦・士 14.3 人、看護補助者 9.6 人、PSW1.1 人、作業療法士 0.9 人、臨床心理技術者 0.4 人であった。また看護体制については、入院基本 3 が全体の 25%を占めており、以下精神療養 1 が 15.0%、入院基本 5 が 9.8%、入院基本 6 が 9.7%、入院基本 4 が 8.1%の順であった。

2．患者数の状況

1）在院患者の状況（表 5 から 8）

平成 12 年 6 月 30 日現在の在院患者総数は 333,003 人、病床利用率は 95.4%であった。前年度と比較して在院患者数は 73 人増加していた。年齢別にみると、65 歳以上の在院患者数は、112,141 人と全体の 33.7%を占め、在院患者の高齢化が引き続き進んでいることが明らかとなった。

入院形態別の在院患者数は、措置入院 3,247 人、医療保護入院 105,359 人、任意入院 220,840 人であった。

疾患別では、器質性精神障害等（F0）15.3%、精神作用物質による精神及び行動の障害（F1）6.0%、精神分裂病、分裂病型障害及び妄想性障害（F2）61.7%、気分障害（F3）6.4%、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害（F4）2.5%、成人の人格及び行動の障害（F6）0.7%などであった。

在院期間別でみると、全在院患者の 29.7%が 1 年未満の在院である一方、43.9%が 5 年以上の在院であった。また入院形態別の在院期間では、任意入院患者の 44.5%は 5 年以上の在院であった。

2）入退院の状況

(1) 入院の状況

平成 11 年 6 月 1 ヵ月間の入院患者数は 26,889 人であった。同年 6 月 1 ヵ月間の外来患者延べ人数は 2,065,207 人であったので、外来受診に対して入院の生じる割合は 76.8 人に 1 人となる。

疾患別では、器質性精神障害等（F0）15.7%、精神作用物質による精神及び行動の障害（F1）13.2%、精神分裂病、分裂病型障害及び妄想性障害（F2）38.4%、気分障害（F3）16.2%、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害（F4）7.7%、成人の人格及び行動の障害（F6）1.6%などであった（表9）。

年齢別では、20歳未満が3.1%、20歳以上40歳未満が27.9%、40歳以上65歳未満が41.1%、65歳以上が27.9%であった（表10）。

(2)退院の状況

平成11年6月1ヵ月間の退院患者数は26,251人であった。また退院の内訳は、家庭復帰等が72.0%、社会復帰施設等が7.5%、転院が15.3%、死亡が5.2%であった。これを在院期間別に見てみると、1年未満では85.2%が家庭復帰等または社会復帰施設であった一方で、20年以上では56.1%が転院を理由として退院しており、在院期間が長くなるほど家庭復帰等または社会復帰施設の割合が減り、転院の割合が増える傾向が明らかとなった（表11）。

疾患別では、器質性精神障害等（F0）15.4%、精神作用物質による精神及び行動の障害（F1）13.0%、精神分裂病、分裂病型障害及び妄想性障害（F2）39.4%、気分障害（F3）16.2%、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害（F4）7.2%、成人の人格及び行動の障害（F6）1.5%などであった（表12）。

年齢別では、20歳未満が2.5%、20歳以上40歳未満が27.5%、40歳以上65歳未満が41.0%、65歳以上が29.0%であった（表13）。

また、在院期間別では、在院期間が1年未満は、21,895（83.4%）人、1年以上5年未満は2,857（10.9%）人、5年以上10年未満は659（2.5%）人、10年以上20年未満は443（1.7%）人、20年以上は397（1.5%）人であった。

(3)患者の動態について（図1、2）

平成11年6月1ヵ月間に新たに入院した患者26,889人の1年後（平成12年6月末日）の転帰については、22,991（85.5%）人が既に退院し、3898（14.5%）人が1年後も入院したままであった。前年度と比較して、1年後の残留者の割合は昨年度の17.5%から今年度では14.5%に減少していた。図1、2に、平成11年6月1ヵ月間に新たに入院した患者26,889人の1年間の動態を示した。設立主体別に多少の違いはあるものの、全体としては2ヵ月で約半数が退院していることが明らかとなった。

平成11年6月1ヵ月間に新たに入院した患者のうち1年後も入院したままであった者の疾患的内訳は、器質性精神障害等（F0）25.1%、精神作用物質による精神及び行動の障害（F1）7.7%、精神分裂病、分裂病型障害及び妄想性障害（F2）50.3%、気分障害（F3）7.7%、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害（F4）2.6%、成人の人格及び行動

の障害（F6）0.8%などであった（表14）。

3）任意入院患者の処遇の状況（表15）

任意入院患者 220,840 人のうち、夜間外開放病棟に入院しているものは 43.7%、個別開放病棟に入院しているものは 23.8%、終日閉鎖病棟に入院しているものは 32.5%であった。保護室などの施錠できる病室に入室していた患者は、夜間外開放病棟で 3.2%、個別開放病棟で 36.2%、終日閉鎖病棟で 65.5%であった。また、任意入院患者 220,840 人中 38,756（17.5%）人が自らの意思ではなく、開放処遇を制限されていた。

D．考察

6 月 30 日調査は、わが国の精神保健福祉の概況を把握できる貴重な資料である。

精神病院の施設数および病床数については、近年は減少傾向が続いていたが、本年度は前年度比較してともにわずかに増加していた。しかし、年度毎の回収率が若干異なるため、この程度の違いは実質的にはほぼ変化なしといえるであろう。今後の施設数、病床数の動向について 13 年度以降の 6 月 30 日調査の結果を踏まえた検討が必要である。専門病床では、精神療養病床、老人性痴呆疾患病床、老人精神病床、急性期治療病床、アルコール・薬物混合病床は増加しており、ある程度の機能分化が進んでいることがうかがえる。特に、老人性痴呆疾患病床、老人精神病床は今後更なる増加が見込まれ、今後の動向を観察する必要がある。しかし、アルコール専門病床、薬物専門病床、児童思春期病床、合併症病床は前年度比でほぼ同じまたは減少していた。そのため薬物専門病床、児童思春期病床、合併症病床は、依然設置率が低いままであり、国立病院においても整備が行き届いていない現状が明らかとなり、今後の整備が強く望まれる。閉鎖・開放別の病床数は、終日閉鎖が減少し個別開放が増加するといった、これまでと同様の傾向が見られた。個別開放の増加は入院患者の処遇の個別化を反映したものと考えられ、今後は個別開放病棟における保護室および施錠できる個室の利用状況を観察していく必要があるといえる。

また人員の面では看護婦・士と准看護婦・士を併せると 100 床あたり 29.0 人の配置となり、看護体制は 4：1 を越えて、3：1 に近づいていることが示された。

在院患者の高齢化は更に進み、33.7%が 65 歳以上の高齢者であった。長期在院院の高齢者に対する処遇を考えることが重要であり、対応を急ぐ必要がある。また、同じく在院患者について指定病院と非指定病院を比較すると、指定病院は非指定病院よりも器質性精神障害の占める割合が低く、精神分裂病圏の障害の占める割合が高かった。この傾向は、入院患者および退院患者についても同

様であった。これらのことは、両者の役割が分担されていることを示唆しているかもしれない。

在院患者と入院患者の疾患別構成を比較すると、在院患者では精神分裂病、分裂病型障害及び妄想性障害が 61.7%を占めており、入院患者に同障害が占める割合より 23.3 ポイント高かった一方で、入院患者では精神作用物質による精神及び行動の障害、気分障害、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害、成人の人格及び行動の障害の占める割合が、それぞれの障害が在院患者に占める割合よりも 2 から 3 倍高かった。

入院患者の動態については、2 ヵ月で約半数が退院しており、前年までと比較しても入院日数の短縮が進んでいることがうかがえる。この短縮化が反映されたためか、入院患者における 1 年後の残留者の割合も前年度比で 3 ポイント減少しており、早期退院の傾向がうかがえた。また、平成 11 年 6 月 1 ヵ月間に新たに入院した者とその中の 1 年後の残留者の疾患別構成比を比較して見ると、残留者において器質性精神障害等（F0）と精神分裂病、分裂病型障害及び妄想性障害（F2）の占める割合が高くなっていた。これらは、精神作用物質による精神及び行動の障害、気分障害、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害などと比べて、入院期間が長いと考えられる疾患であった。

任意入院患者の処遇については、220,840 人中 38,756（17.5%）人が自らの意思ではなく、開放処遇を制限されており、この点についてはその理由等を調べる必要があると思われる。

E．結論

平成 12 年度の 6 月 30 日調査の精神病院に関係する部分をまとめた。この調査はわが国の精神科医療の現況を把握できる貴重な資料であり、継続して実施されていることから、縦断的な概況をも把握可能であり、非常に有用度が高い。今回のデータから、一部の専門病床の整備の遅れや、長期在院の高齢者の処遇への対応の必要性などいくつかの課題が明らかになった。これらの課題に対して対策を講じた際に、精神科医療の状況がどう変化したかをモニタリングするためにも、このデータは必要であり、継続して実施することに大きな意義があるといえる。

F．健康危険情報　なし

G．研究発表

1．論文発表　なし
2．学会発表　なし

H．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1．特許取得　なし
2．実用新案登録　なし
3．その他　なし

表１　精神病院の概況

		病院数	単科／一般			指定病院	応急入院指定病院	精神科救急医療施設
			単科病院	一般病院で精神病床の割合が80%以上	一般病院で精神病床の割合が80%未満			
病院区分	大学病院	82	2	0	80	1	10	9
	国立病院	49	7	4	38	2	10	10
	都道府県立病院	79	44	0	35	4	38	42
	指定病院	1007	767	131	109	1007	98	599
	非指定病院	450	259	64	127	0	0	119
合計		1,667	1079	199	389	1014	156	779

表２　専門病床の状況

区分	病院数	応急指定	救急病院	精神病床	指定病床	専門病棟等の状況																							
						急性期				老人性痴呆疾患				精神療養				老人精神		アルコール		薬物		アルコール・薬物混合		児童思春期		合併症	
						A		B		治療		療養		A		B													
						病棟数	病床数	病棟数	病床数	病棟数	病床数	病棟数	病床数	病棟数	病床数	病棟数	病床数	病棟数	病床数	病棟数	病床数	病棟数	病床数	病棟数	病床数	病棟数	病床数	病棟数	病床数
大学病院	82	10	9	(A) 4,497	5	1	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	50	1	48	0	0	0	0	0	0	0	0
国立	49	10	10	6,944	395	4	148	3	150	6	317	0	0	15	757	0	0	6	294	4	188	1	29	0	0	1	50	5	241
都道府県立	79	38	42	15,942	701	9	345	0	0	7	310	1	50	30	1,629	0	0	14	611	12	391	0	0	0	0	17	593	15	309
指定病院	1,007	98	599	252,213	15,420	82	4,118	21	1,081	119	5,949	137	7,167	731	39,763	206	11,744	127	6,958	52	2,753	3	220	8	493	1	28	25	977
非指定病院	450	0	119	69,370	0	5	287	7	352	39	2,031	86	4,549	89	4,814	73	3,928	126	6,819	18	952	1	68	7	385	1	40	18	486
合計	1,667	156	779	348,966	16,521	101	4,958	31	1,583	171	8,607	224	11,766	865	46,963	279	15,672	274	14,732	87	4,332	5	317	15	878	20	711	63	2,013

表3　開放・閉鎖等の状況

区分	夜間外開放				個別開放				終日閉鎖				保護室							施錠できる個室						
	病棟数	電病話棟設数置	病床数	電病話床設数置	病棟数	電病話棟設数置	病床数	電病話床設数置	病棟数	電病話棟設数置	病床数	電病話床設数置	夜間外開放	個別開放	終日閉鎖	モニター設置		トイレ		夜間外開放	個別開放	終日閉鎖	モニター設置		トイレ	
																あり	なし	あり	なし				あり	なし	あり	なし
大学病院	51	49	(B) 1,698	1,376	27	27	(C) 1,198	1,074	46	45	(D) 1,601	1,364	12	50	121	135	48	144	39	95	87	64	80	166	77	169
国立	60	56	2,785	2,191	13	13	645	514	73	63	3,514	2,668	18	40	247	125	180	274	31	75	78	155	52	256	122	186
都道府県立	205	121	7,229	5,483	42	41	1,926	1,613	207	146	6,787	6,076	78	152	498	356	372	701	27	331	201	273	119	686	313	492
指定病院	1,590	1,454	85,267	72,512	1,006	964	56,154	49,766	2,046	1,908	110,792	94,227	352	1,416	5,786	2,895	4,659	7,289	265	1,066	1,055	1,335	370	3,086	1,573	1,883
非指定病院	525	454	26,544	22,667	311	290	16,917	15,242	500	459	25,909	23,211	134	359	1,009	412	1,090	1,446	56	330	326	227	126	757	333	550
合計	2,431	2,134	123,523	104,229	1,399	1,335	76,840	68,209	2,872	2,621	148,603	127,546	594	2,017	7,661	3,923	6,349	9,854	418	1,897	1,747	2,054	747	4,951	2,418	3,280

表4　常勤職員・看護体制の状況

区分	医師		指定医		作業療法士		PSW				臨床心理技術者		正看護婦・士		准看護婦・士		看護補助者		看護体制等の取得状況																		
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	有資格者	非常勤	有資格者	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	入院基本1	入院基本2	入院基本3	入院基本4	入院基本5	入院基本6	入院基本7	特別入院1	特別入院2	急性治療1	急性治療2	精神療養1	精神療養2	老人病棟	重度病棟	老人療養1	老人療養2	介護型	非該当不明
大学病院	1234	441	619	161	52	11	40	19	8	3	59	50	1707	13	170	3	126	26	7	6	59	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	5
国立	332	150	197	12	73	2	35	23	3	0	39	23	2022	27	513	9	284	18	0	0	35	1	3	0	0	0	0	1	0	2	0	3	1	0	0	0	7
都道府県立	611	167	430	52	180	19	154	88	9	2	124	16	5339	95	1108	60	316	60	6	0	64	2	0	0	1	0	0	5	0	8	0	0	3	1	0	1	1
指定病院	5698	6321	3730	1683	2298	154	2873	1363	54	29	980	367	34454	2355	38446	2263	24492	2064	5	0	359	158	163	162	76	20	15	53	7	297	102	74	18	27	0	93	0
非指定病院	1543	2255	935	626	415	50	641	271	47	21	200	172	7727	837	9825	932	8178	783	6	4	104	36	74	75	65	14	22	3	0	52	41	26	1	12	0	41	8
合計	9418	9334	5911	2534	3018	236	3743	1764	121	55	1402	628	51249	3327	50062	3267	33398	2951	24	10	621	198	240	237	142	34	37	63	7	359	144	103	24	40	0	135	21

表５　入院形態別在院患者数

区分	平成１２年６月３０日現在															
	在院患者数															保護室の利用者数
	措置			医療保護			任意			その他			合計			
	夜間外	個別	閉鎖	夜間外	個別	閉鎖	夜間外	個別	閉鎖	夜間外	個別	閉鎖	夜間外	個別	閉鎖	
大学病院	0	1	29	196	295	1,002	1,164	686	573	8	3	1	1,368	985	1,605	95
国立	12	9	77	347	245	1,724	1,931	583	857	18	3	106	2,308	840	2,764	210
都道府県立	1	48	250	1,415	911	3,954	4,364	732	1,895	239	8	14	6,019	1,699	6,113	581
指定病院	99	333	2,388	11,402	13,179	55,421	67,471	38,478	54,191	905	132	181	79,877	52,122	112,181	5,383
非指定病院	0	0	0	2,165	2,793	10,310	21,061	12,679	14,175	1,200	215	524	24,426	15,687	25,009	892
合計	112	391	2,744	15,525	17,423	72,411	95,991	53,158	71,691	2,370	361	826	113,998	71,333	147,672	7,161
	3,247 (A)			105,359 (B)			220,840 (C)			3,557 (D)			333,003 (E)			

表６　疾患別在院患者数

疾患名	総数		大学		国立		都道府県立		指定		非指定	
	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%
Ｆ０　症状性を含む器質性精神障害	50,783	15.3	317	8.0	662	11.2	876	6.3	31,435	12.9	17,493	26.9
Ｆ００　アルツハイマー病の痴呆	12,262	3.7	71	1.8	246	4.2	359	2.6	7,236	3.0	4,350	6.7
Ｆ０１　血管性痴呆	22,890	6.9	44	1.1	129	2.2	209	1.5	14,055	5.8	8,453	13.0
Ｆ０２－０９　上記以外の症状性を含む器質性精神障害	15,631	4.7	202	5.1	287	4.9	308	2.2	10,144	4.2	4,690	7.2
Ｆ１　精神作用物質による精神及び行動の障害	20,024	6.0	102	2.6	419	7.1	745	5.4	14,508	5.9	4,250	6.5
Ｆ１０　アルコール使用による精神及び行動の障害	17,572	5.3	76	1.9	314	5.3	613	4.4	12,607	5.2	3,962	6.1
覚せい剤による精神及び行動の障害	878	0.3	11	0.3	59	1.0	77	0.6	635	0.3	96	0.1
アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	1,574	0.5	15	0.4	46	0.8	55	0.4	1,266	0.5	192	0.3
Ｆ２　精神分裂病、分裂病型障害及び妄想性障害	205,352	61.7	1,595	40.3	3,562	60.3	9,166	66.3	159,007	65.1	32,022	49.2
Ｆ３　気分（感情）障害	21,331	6.4	1,157	29.2	566	9.6	1,102	8.0	14,350	5.9	4,156	6.4
Ｆ４　神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	8,477	2.5	416	10.5	243	4.1	421	3.0	5,832	2.4	1,565	2.4
Ｆ５　生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	705	0.2	100	2.5	30	0.5	75	0.5	383	0.2	117	0.2
Ｆ６　成人の人格及び行動の障害	2,474	0.7	59	1.5	84	1.4	144	1.0	1,666	0.7	521	0.8
Ｆ７　精神遅滞	10,504	3.2	40	1.0	106	1.8	471	3.4	7,733	3.2	2,154	3.3
Ｆ８　心理的発達の障害	354	0.1	7	0.2	15	0.3	87	0.6	212	0.1	33	0.1
Ｆ９　小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	614	0.2	25	0.6	24	0.4	161	1.2	305	0.1	99	0.2
てんかん（Ｆ０に属さないものを計上する）	7,105	2.1	88	2.2	101	1.7	258	1.9	5,169	2.1	1,489	2.3
その他	5,280	1.6	52	1.3	100	1.7	325	2.3	3,580	1.5	1,223	1.9
合　　計	333,003	100.0	3,958	100.0	5,912	100.0	13,831	100.0	244,180	100.0	65,122	100.0

表７　在院期間別在院患者数

区分	１カ月未満	１カ月以上 ３カ月未満	３カ月以上 ６カ月未満	６カ月以上 １年未満	１年以上 ５年未満	５年以上 １０年未満	１０年以上 ２０年未満	２０年以上	合計
２０歳未満	645	672	443	298	299	52	35	1	2,445
２０歳以上４０歳未満	5,605	6,752	4,440	4,183	10,536	4,796	3,126	802	40,241
４０歳以上６５歳未満	8,855	12,356	9,268	11,512	42,526	28,000	32,549	33,113	178,176
６５歳以上	6,047	9,105	8,378	10,343	34,417	14,872	12,292	16,685	112,141
合計	21,152	28,885	22,529	26,336	87,778	47,720	48,002	50,601	333,003

表８　入院形態別在院期間

区分	１カ月未満	１カ月以上 ３カ月未満	３カ月以上 ６カ月未満	６カ月以上 １年未満	１年以上 ５年未満	５年以上 １０年未満	１０年以上 ２０年未満	２０年以上	合計
措置入院	405	453	228	212	550	255	305	839	3,247
医療保護入院	7,235	10,735	8,173	8,855	25,363	13,076	14,954	16,968	105,359
任意入院	13,229	17,372	13,883	16,988	61,092	33,910	32,315	32,051	220,840
その他入院	283	325	245	281	773	479	428	743	3,557
合計	21,152	28,885	22,529	26,336	87,778	47,720	48,002	50,601	333,003

表９　疾患別入院患者数

疾患名	総数		大学		国立		都道府県立		指定		非指定	
	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%
Ｆ０　症状性を含む器質性精神障害	4,220	15.7	115	8.4	115	11.8	201	8.7	2,610	15.2	1,179	23.4
Ｆ００　アルツハイマー病の痴呆	997	3.7	33	2.4	38	3.9	55	2.4	572	3.3	299	5.9
Ｆ０１　血管性痴呆	1,871	7.0	19	1.4	23	2.4	53	2.3	1,180	6.9	596	11.8
Ｆ０２－０９　上記以外の症状性を含む器質性精神障害	1,352	5.0	63	4.6	54	5.5	93	4.0	858	5.0	284	5.6
Ｆ１　精神作用物質による精神及び行動の障害	3,541	13.2	79	5.7	125	12.8	342	14.8	2,270	13.2	725	14.4
Ｆ１０　アルコール使用による精神及び行動の障害	2,994	11.1	53	3.8	83	8.5	273	11.8	1,924	11.2	661	13.1
覚せい剤による精神及び行動の障害	219	0.8	13	0.9	11	1.1	43	1.9	130	0.8	22	0.4
アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	328	1.2	13	0.9	31	3.2	26	1.1	216	1.3	42	0.8
Ｆ２　精神分裂病、分裂病型障害及び妄想性障害	10,337	38.4	426	30.9	360	37.0	987	42.6	7,052	41.0	1,512	30.0
Ｆ３　気分（感情）障害	4,363	16.2	374	27.2	179	18.4	345	14.9	2,650	15.4	815	16.2
Ｆ４　神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	2,059	7.7	218	15.8	84	8.6	154	6.6	1,205	7.0	398	7.9
Ｆ５　生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	188	0.7	49	3.6	11	1.1	26	1.1	71	0.4	31	0.6
Ｆ６　成人の人格及び行動の障害	426	1.6	21	1.5	20	2.1	39	1.7	253	1.5	93	1.8
Ｆ７　精神遅滞	425	1.6	8	0.6	20	2.1	43	1.9	278	1.6	76	1.5
Ｆ８　心理的発達の障害	51	0.2	0	0.0	1	0.1	22	0.9	16	0.1	12	0.2
Ｆ９　小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	93	0.3	11	0.8	5	0.5	17	0.7	47	0.3	13	0.3
てんかん（Ｆ０に属さないものを計上する）	375	1.4	26	1.9	18	1.8	20	0.9	238	1.4	73	1.4
その他	811	3.0	50	3.6	35	3.6	121	5.2	492	2.9	113	2.2
合　　計	26,889	100.0	1,377	100.0	973	100.0	2,317	100.0	17,182	100.0	5,040	100.0

表 10　年齢別入院患者数

	人数					%				
	２０歳未満	２０歳以上 ４０歳未満	４０歳以上 ６５歳未満	６５歳以上	計	２０歳未満	２０歳以上 ４０歳未満	４０歳以上 ６５歳未満	６５歳以上	計
大学	109	573	466	229	1,377	7.9	41.6	33.8	16.6	100.0
国立	47	327	409	190	973	4.8	33.6	42.0	19.5	100.0
都道府県立	139	787	939	452	2,317	6.0	34.0	40.5	19.5	100.0
指定	415	4,636	7,345	4,786	17,182	2.4	27.0	42.7	27.9	100.0
非指定	111	1,190	1,900	1,839	5,040	2.2	23.6	37.7	36.5	100.0
合計	821	7,513	11,059	7,496	26,889	3.1	27.9	41.1	27.9	100.0

表 11　退院の内訳

退院時の状況	在院期間別						
	１年未満	１年以上 ５年未満	５年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上	計	
						人数	%
家庭復帰等	17,246	1,339	171	93	41	18,890	72.0
社会復帰施設等	1,413	357	91	50	56	1,967	7.5
転　院	2,541	763	268	221	223	4,016	15.3
死　亡	695	398	129	79	77	1,378	5.2
計	21,895	2,857	659	443	397	26,251	100.0

表 12　疾患別退院患者数

疾患名	総数		大学		国立		都道府県立		指定		非指定	
	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%
F０　症状性を含む器質性精神障害	4,042	15.4	86	6.4	96	10.3	189	8.8	2,523	14.9	1,148	23.3
F００　アルツハイマー病の痴呆	995	3.8	26	1.9	31	3.3	65	3.0	594	3.5	279	5.7
F０１　血管性痴呆	1,845	7.0	10	0.7	25	2.7	42	2.0	1,171	6.9	597	12.1
F０２－０９　上記以外の症状性を含む器質性精神障害	1,202	4.6	50	3.7	40	4.3	82	3.8	758	4.5	272	5.5
F１　精神作用物質による精神及び行動の障害	3,413	13.0	74	5.5	148	15.8	319	14.8	2,132	12.6	740	15.0
F１０　アルコール使用による精神及び行動の障害	2,912	11.1	46	3.4	104	11.1	253	11.8	1,824	10.8	685	13.9
覚せい剤による精神及び行動の障害	197	0.8	6	0.4	18	1.9	46	2.1	112	0.7	15	0.3
アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	304	1.2	22	1.6	26	2.8	20	0.9	196	1.2	40	0.8
F２　精神分裂病、分裂病型障害及び妄想性障害	10,339	39.4	412	30.4	306	32.8	924	43.0	7,188	42.6	1,509	30.6
F３　気分（感情）障害	4,253	16.2	403	29.8	182	19.5	311	14.5	2,568	15.2	789	16.0
F４　神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	1,899	7.2	205	15.1	83	8.9	145	6.7	1,107	6.6	359	7.3
F５　生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	166	0.6	43	3.2	18	1.9	20	0.9	60	0.4	25	0.5
F６　成人の人格及び行動の障害	388	1.5	32	2.4	18	1.9	37	1.7	220	1.3	81	1.6
F７　精神遅滞	428	1.6	12	0.9	17	1.8	42	2.0	273	1.6	84	1.7
F８　心理的発達の障害	45	0.2	3	0.2	5	0.5	16	0.7	14	0.1	7	0.1
F９　小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	103	0.4	9	0.7	6	0.6	25	1.2	50	0.3	13	0.3
てんかん（F０に属さないものを計上する）	429	1.6	37	2.7	24	2.6	24	1.1	270	1.6	74	1.5
その他	746	2.8	38	2.8	31	3.3	97	4.5	477	2.8	103	2.1
合　　計	26,251	100.0	1,354	100.0	934	100.0	2,149	100.0	16,882	100.0	4,932	100.0

表 13　年齢別退院患者数

	人数					%				
	２０歳未満	２０歳以上 ４０歳未満	４０歳以上 ６５歳未満	６５歳以上	計	２０歳未満	２０歳以上 ４０歳未満	４０歳以上 ６５歳未満	６５歳以上	計
大学	108	591	455	200	1,354	8.0	43.6	33.6	14.8	100.0
国立	36	351	359	188	934	3.9	37.6	38.4	20.1	100.0
都道府県立	113	717	864	455	2,149	5.3	33.4	40.2	21.2	100.0
指定	316	4,415	7,242	4,909	16,882	1.9	26.2	42.9	29.1	100.0
非指定	77	1,155	1,845	1,855	4,932	1.6	23.4	37.4	37.6	100.0
合計	650	7,229	10,765	7,607	26,251	2.5	27.5	41.0	29.0	100.0

表 14　平成 11 年 6 月 1 ヵ月間に新たに入院した患者のうち 1 年後も在院していた患者の疾患の内訳

疾患名	総数		大学		国立		都道府県立		指定		非指定	
	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%
F０　症状性を含む器質性精神障害	977	25.1	2	6.9	10	11.5	14	9.4	579	21.2	372	41.0
F００　アルツハイマー病の痴呆	243	6.2	1	3.4	5	5.7	1	0.7	130	4.8	106	11.7
F０１　血管性痴呆	448	11.5	1	3.4	4	4.6	6	4.0	276	10.1	161	17.7
F０２－０９　上記以外の症状性を含む器質性精神障害	286	7.3	0	0.0	1	1.1	7	4.7	173	6.3	105	11.6
F１　精神作用物質による精神及び行動の障害	301	7.7	1	3.4	6	6.9	8	5.4	212	7.8	74	8.1
F１０　アルコール使用による精神及び行動の障害	267	6.8	1	3.4	5	5.7	6	4.0	190	7.0	65	7.2
覚せい剤による精神及び行動の障害	7	0.2	0	0.0	0	0.0	1	0.7	4	0.1	2	0.2
アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	27	0.7	0	0.0	1	1.1	1	0.7	18	0.7	7	0.8
F２　精神分裂病、分裂病型障害及び妄想性障害	1,961	50.3	17	58.6	53	60.9	88	59.1	1,470	53.9	333	36.7
F３　気分（感情）障害	301	7.7	6	20.7	4	4.6	25	16.8	210	7.7	56	6.2
F４　神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	100	2.6	1	3.4	3	3.4	3	2.0	75	2.8	18	2.0
F５　生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	8	0.2	2	6.9	0	0.0	0	0.0	4	0.1	2	0.2
F６　成人の人格及び行動の障害	31	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	22	0.8	9	1.0
F７　精神遅滞	69	1.8	0	0.0	3	3.4	5	3.4	44	1.6	17	1.9
F８　心理的発達の障害	5	0.1	0	0.0	1	1.1	1	0.7	3	0.1	0	0.0
F９　小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	3	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	0.1	0	0.0
てんかん（F０に属さないものを計上する）	54	1.4	0	0.0	5	5.7	2	1.3	39	1.4	8	0.9
その他	88	2.3	0	0.0	2	2.3	3	2.0	64	2.3	19	2.1
合　　計	3,898	100.0	29	100.0	87	100.0	149	100.0	2,725	100.0	908	100.0

表 15　任意入院患者の処遇

	開放処遇	開放処遇を制限	患者の意思による開放以外の処遇	合計
夜間外開放	93, 441	2, 017	1, 086	96, 544
個別開放	33, 511	12, 549	6, 465	52, 525
終日閉鎖	24, 756	24, 190	22, 825	71, 771
合計	151, 708	38, 756	30, 376	220, 840

「夜間の時間帯を除き開放の病棟」にあって「開放処遇を制限」「患者の意思による開放以外の処遇」に該当する患者とは、施錠できる病室等に入室している患者をいう。

図１　設立主体別残留数の変化

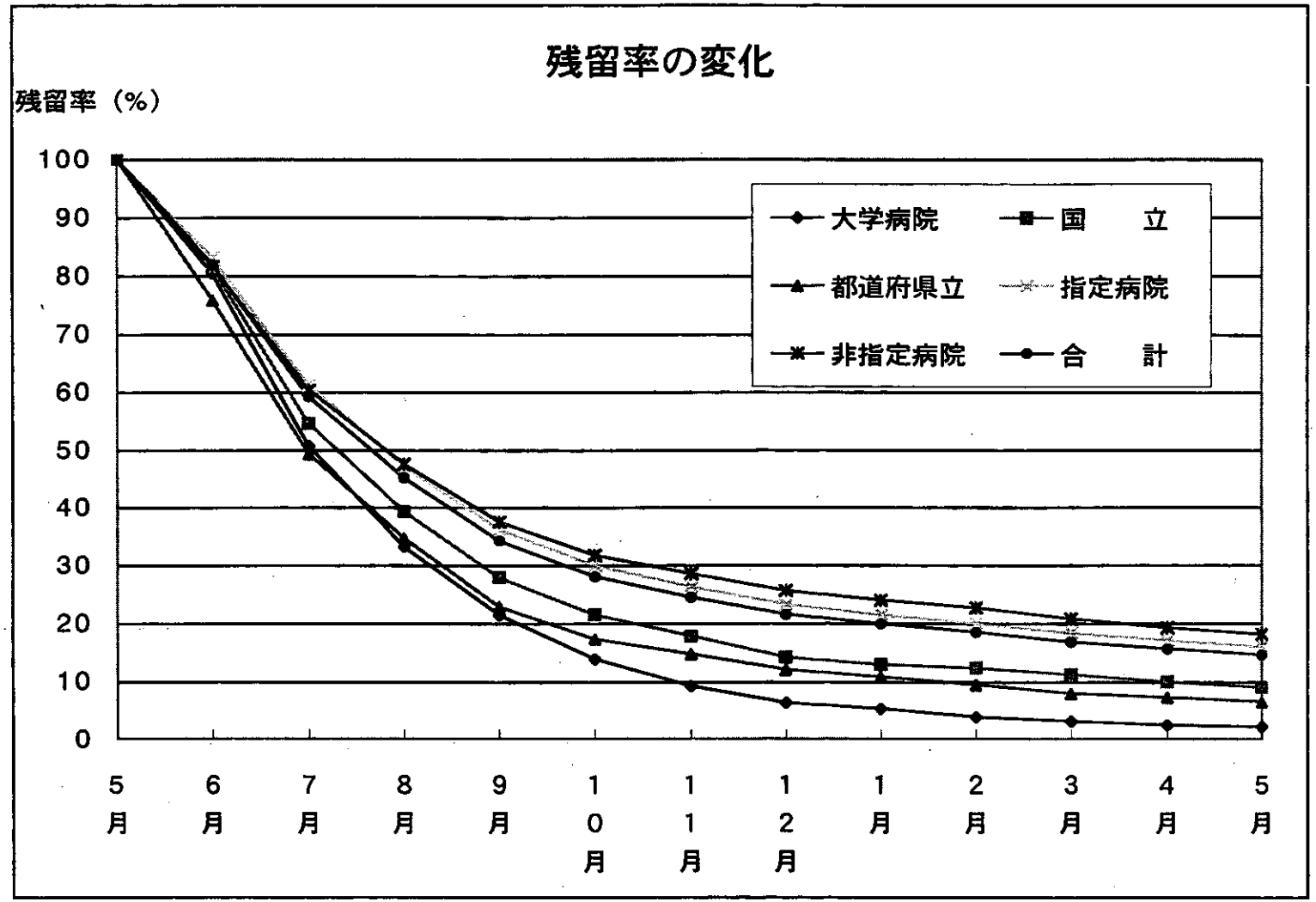
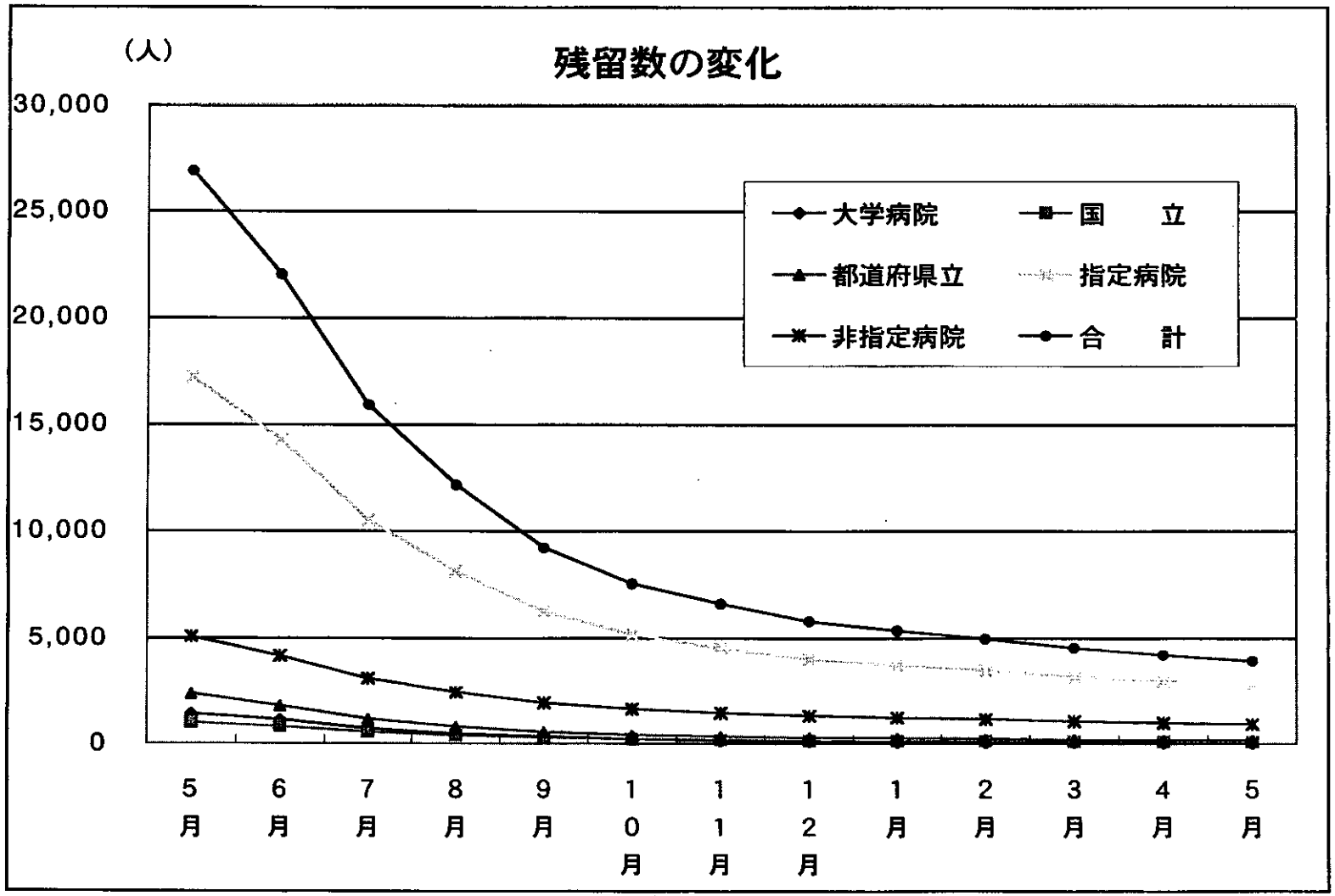


図２　設立主体別残留率の変化



平成12年度厚生科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）
精神病院・社会復帰施設の評価および情報提供のあり方に関する研究

分担研究報告書
痴呆性疾患専門病棟の機能評価に関する研究

分担研究者　永田　耕司　長崎大学医学部公衆衛生学教室
主任研究者　竹島　　正　国立精神・神経センター精神保健研究所

研究要旨　厚生労働省精神保健福祉課は毎年6月30日付で精神病院，精神科デイケア施設，社会復帰施設等の調査を行い，その概要を「我が国の精神保健福祉」に公表している。本研究では，平成12年度調査の中の老人性痴呆疾患専門病棟に関する部分をまとめた。その結果，老人性痴呆疾患専門病棟の整備は進んではいるものの都道府県によるばらつきがみられた。治療病棟と療養病棟の比較では，在院期間，病床数に対する入院患者の比率に差がみられた。しかし退院状況においては，治療病棟において一般病院への退院，特別養護老人ホームへの退院の割合が高く，死亡退院が少なかったものの，治療病棟と療養病棟という違いを示すだけの明確な差はみられなかった。老人性痴呆疾患専門病棟の実態について，調査が必要と思われる。

A　目的

平成12（2000）年における65歳以上の痴呆性老人の推計数は150.0万人であったが，平成32（2020）年には274.1万人に増加すると予測されている。

平成12年6月30日時点の在院患者のうち約5万人は「症状性を含む器質性精神障害」であるが，痴呆性老人の入院需要の増加に対応して，老人性痴呆疾患専門病棟が整備されつつある。老人性痴呆疾患専門病棟は約2万床整備され，約1万9千人が在院している。本研究においては老人性痴呆疾患専門病棟の運営状況を，平成12年の6月30日調査をもとに検討した。

B　方法

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神保健福祉課では，毎年6月30日付で，精神保健福祉課長から都道府県・政令指定都市の精神保健福祉主管部（局）長に「精神保健福祉関係資料の作成について」という文章依頼を行い，全国の精神病院の状況等についての資料を得ている。この情報収集は精神保健福祉課の業務の参考にすることを目的としており，全国の精神病院等の協力によって継続され，我が国の精神保健福祉に関する貴重な資料となっている。本研究は平成12年6月30日付で行われた調査の中の，老人性痴呆疾患専門病棟に関する調査票を厚生科学研究として解析を行ったものである。

老人性痴呆疾患専門病棟は，治療病棟と療養病棟に分けられる。

治療病棟は昭和63年より実施され，「精神症状や問題行動が特に著しい痴呆で，自宅や他の施設で療養が困難

な者に対し，短期集中的に精神科的治療と手厚いケアを提供する施設」である。

療養病棟は平成3年度より実施され，「著しい問題行動はおさまったものの依然として精神症状を有する痴呆患者を長期的治療していく施設」である。

調査票の解析にあたっては，整備状況については都道府県・政令指定都市別の比較検討を行った。在院期間，入退院状況については，治療病棟と療養病棟に区分して比較検討を行った。また必要に応じて都道府県・政令指定都市別の検討を加えた。

ここで在院期間とは，平成 12 年 6 月 30 日時点で老人性痴呆疾患専門病棟に在院している患者の，継続して入院している期間（病院内で転棟によって老人性痴呆疾患専門病棟に入院している患者については，転棟前の在院期間を含む）をいう。調査票では在院期間別は，「1 ヶ月未満」「1 ヶ月以上 3 ヶ月未満」「3 ヶ月以上 6 ヶ月未満」「6 ヶ月以上 1 年未満」「1 年以上 5 年未満」「5 年以上 20 年未満」「20 年以上」の 7 区分となっているが，都道府県・政令指定都市別の比較については，在院期間を「1 年未満」「1 年以上 5 年未満」「5 年以上」の 3 区分とした。

入退院状況とは，平成 11 年度 1 年間の新たな入退院（院内の転棟は含まない）である。入院状況については患者数データを利用した。退院については，退院後の行き先を区分したデータを用いた。退院状況については，「精神病院等」「病院」「老人保健施設」「特別養護老人ホーム」「グループホーム」「家庭復帰等」「死亡」「その他」の 8 区分になっている。都道府県・政令指定都市別の比較については，「グループホーム」「家庭復帰等」を「地域ケア群」，「老人保健施設」「特別養護老人ホーム」を「福祉ケア群」，「精神病院等」「病院」を「入院群」，にまとめ，「死亡」「その他」を含めて 5 区分とした。

C　結果

1　整備状況

治療病棟は 171 病院に 171 病棟，8,607 床が整備されていた。病院区分別の整備状況は，大学病院 0 床，国立病院 317 床，都道府県立病院 310 床，指定病院 5,949 床，非指定病院 2,031 床であった。

療養病棟は 224 病院に 224 病棟，11,662 床が整備されていた。病院区分別の整備状況は，大学病院 0 床，国立病院 0 床，都道府県立病院 50 床，指定病院 7,167 床，非指定病院 4,549 床であった。

人口万対専門病床数の全国平均は，治療病床 0.7，療養病床 0.9，専門病床合計は 1.6 であった。都道府県・政令指定都市別では，治療病床は，北九州市の 3.8 をはじめとして，沖縄県 3.6，佐賀県 3.0，島根県 2.7 と続き，おおむね中国・九州ブロックにおける整備が先行していた。病床の設置のない都道府県・政令指定都市は 12 カ所（20.3%）であった。療養病床は，大分県 3.7，鹿児島県 3.7，熊本県 2.7，岡山県 2.4，新潟県 2.4 と続き，中国・九州ブロックにおける整備が先行していたものの，治療病床よりも差は小さかった。療養病床の設置のない都道府県・政令指定都市は 10 カ所（16.9%）であった。痴呆性疾患専門病床の整備されていない都道府県・政令指定都市